

復興を歩む vol.35

農業者等の意見交換会

1月26日、つきだて花工房で、農業委員会主催の平成29年度「農業者等の意見交換会」が開かれました。

農業委員会、村、JAの報告に続き、参加者が自由に意見を交換しました。村で再開した営農への意欲が大いに語られ、また、農業基盤整備の進め方・放射性物質対策の現状・獣医の確保の見込みなどについて質疑応答もありました。農業者の皆さんは、営農を軌道に乗せようと、熱意を持って課題解決に取り組んでいます。

昨年サヤインゲンの出荷を最初に再開した末永瑞夫さん（深谷）は、「わざわざ私のインゲンを買いに来てくれた人もいた。PRが大事だと思う。1人ではまかないきれないので、多くの生産者を確保してほしい」と発言。JAの川井智洋飯館営農センター長（二枚橋・須萱）も「保冷库の整備なども考えてい。以前のように皆でインゲンを作っていきたい」と応じました。

イチゴを生産する菅野幸藏さん（前

田・八和木）も、大消費地に加工用の販路が広がっていることを紹介。「やりたい人がいれば、研修をしたり苗を供給したりしたい。花も好評だが、イチゴもあると言いたい」と前向きです。カスミソウの栽培については村が報告し、新たに始めたいという若い人が出てきて、先行事例がきっかけづくりになっていることを紹介しました。「新規参入する人とのつながりも大切にしよう」と声があがりました。

飯館牛の復活を目指す佐藤一郎さん（大倉）は、避難先で知り合った和牛繁殖の仲間、天野浩樹さん（相馬市）を紹介。天野さんは、「震災前、セリですらりと並ぶ飯館の牛に圧倒されたものです。飯館から全国に出ていく牛を、皆さんと一緒にやりたい」と決意を語り、拍手に包まれました。天野さんは、妻と子どもの4人家族で、村に移住し畜産に取り組む準備を進めているそうです。

農業委員会の菅野宗夫会長（佐須）は、「天野さんのお話に元気をもらい、感激した。外から来てくださる方とも、情報を伝え合い、気持ちをつかち合ってやっていきたい」と述べ、委員会の活動を強化しながら、関係機関も含めて協働していこうと呼びかけました。

意見交換会には、農業者と農業委員会の他、村長はじめ村の関係者、JA、村議会議員、関連事業者などが出席しました。困難な状況を乗り越えようという意欲を燃やす参加者の熱意と、農業者としてのプライドが、強く感じられる意見交換会となりました。佐藤一郎さん（写真中央）の右隣りが、本文の後半で紹介した天野さんです。

